

## 特集 地域の宝

# おらがまちの世界一

この町工場の技術が、実は業界シェア、ナンバーワン。生活に根付く知恵が、実はあの地域発祥。そうした日本の地方の技術やノウハウが、開発途上国の抱える課題の解決に生かされているのをご存知だろうか。地元の活力も生み出す地方の宝に注目だ。

## 東京だけじゃない 地方は優れた技術の宝庫

古くから受け継がれてきた伝統や、企業が考案した画期的な技術、さらには長年の経験を通じて自治体が培った公共サービス提供のノウハウまで、日本の地方にはキラリと光るさまざまな英知が存在する。それらは、住み慣れた地元民なら誰でも知っているものの場合もあるし、地域の知られざる「宝」であることも少なくない。

近年、ODA（政府開発援助）事業を通じて、こうした地方の宝を開発途上国が抱えるさまざまな課題の解決に生かそ

うという動きが活発化している。そうした取り組みは、支援先の途上国側にとっても有益であるだけでなく、地方にとっても技術の継承や海外展開のきっかけとして重要だ。さらに、協力を通じて、支援元が自分たちの製品やノウハウなどが世界水準であることを実感し、翻っては、地元住民が地域の誇りを再認識する機会にもなっている。

そうした地方企業の代表とも言える石川県金沢市の会宝産業株式会社は、自動車リサイクル業の国内最大手で、現在、世界80の国と地域に中古自動車部品の輸出・販売を行っている。同社の近藤典彦代表取締役会長は、自身の経験をこう語る。

「日本で廃車とされる車の部品は、特に途上国から高い需要があります。でも、従来、その売買は、一山いくら」という扱いで、それでは個々の部品の信頼性が分かりませんでした。そこで、当社では、一つ一つの部品を査定し、適正価格を付けて販売するようにしたのです。これにより、海外バイヤーに安心して部品を買ってもらえるだけでなく、廃車同然であっても適切な代金を支払って国内の顧客から車を買取ることができるようになりました」

同社が、2010年に世界で初めて定めた自動車中古エンジンの性能を評価する規格は、「PAS77」として英国規

格協会から正式に発行されている。

## 活躍の場は世界に 感謝の気持ちは地元へ

世界に羽ばたく地方企業のトップブランドである近藤さんは、日本が経済発展を遂げる過程で、各地あるいは各業界が培ってきたさまざまな知恵や経験を途上国に生かすことの重要性を指摘する。「そのためには、まず、自分たちの事業に対する誇りと利他の精神を持つことが大切です。華やかな新車の製造・販売に対して、リサイクル業は静脈産業と言えます。

私たちは、事業を通じて世界に資源循環型社会を作ることを目指しており、地球

〈取材協力〉  
会宝産業株式会社  
代表取締役会長 近藤典彦氏

1947年石川県出身。高校卒業後、東京の自動車解体業者に就職。その後、石川県に戻り、22歳で「有限会社近藤自動車商会」を設立。92年からは「会宝産業株式会社」として、国内外で中古エンジンをはじめとする自動車リサイクル事業を展開し業績を伸ばす。著書「エコで世界を元気にする!!」(PHP研究所出版)。

# 地域の宝を掘り起こそう!

中小企業が持つ優れた技術や、地域が誇る特産品。実は、それが海外からの注目の的となったり、開発途上国の課題解決につながったりと、さまざまな可能性を秘めている。穴埋めクイズに挑戦しながら、日本の各地に眠る“宝”を探しに行こう!

## Q.5 近畿の宝

from 和歌山県

### 地域ブランドの〇〇

温暖な気候に恵まれた和歌山県有田市では、地域ブランドとしてこの農産物を売り出している。近年、そのおいしさを世界に広めようと、地元の企業が海外での販路拡大に取り組んでいる。中心となっているのは、タイで果樹栽培を指導した経験を持つ青年海外協力隊の元隊員だ。

## Q.3 北信越の宝

from 富山県

### 300年以上の歴史を持つ〇〇

一家に一箱。富山発祥のこのシステムは、各家庭に1セットを預けて、そこから使った分の代金を後から受け取り、再び補充するというもの。富山大学が中心となって、ミャンマーにこのシステムを普及・定着させることを目指している。

## Q.6 中国・四国の宝

from 広島県

### 毎日の食卓を支える〇〇

広島県のメーカー企業が手掛けているのは、日本の食卓の主力のおいしさを追求したある農業機械。実はこの企業、アジアや欧米、南米などにも拠点を持ち、日本のみならず世界でも圧倒的なシェアを誇る。世界に貢献するその機械とは。

## Q.7 九州・沖縄の宝

from 大分県

### 村おこしとして始まった〇〇

それぞれの地域が特産品を開発して、地域振興につなげる。大分県大山町を発祥とし、日本ではすっかりおなじみとなったこの運動は、青年海外協力隊の活動などを通じて、タイやマラウイ、キルギスなど海外にも広がりを見せている。

## Q.1 北海道・東北の宝

from 北海道

### 〇〇の収穫機

北海道の特産品と言えば欠かせないのがこの食材。その収穫機の国内シェア7割を占めるトップメーカーが帯広市にある。最新の技術を駆使した収穫機は、この食材の生産量世界2位を誇るインドへと渡り、現地の農家たちとの挑戦が始まっている。

## Q.2 関東の宝

from 千葉県

### 〇〇の迅速検査技術

おとし、日本でも約70年ぶりに国内感染が確認されて話題となった感染症。千葉県にある企業は、この感染の有無を迅速かつ正確に判定することができる検査キットを開発した。検査設備が無い途上国の診療所などでも活用できる製品として、今、注目が集まっている。

## Q.4 東海の宝

from 静岡県

### 〇〇の成分分析計

静岡県の名産品と言えば、これを思い生産量は堂々の日本一だが、実はそのシェア100%を誇る企業も県内に存在し、世界有数の産地であるスリランカ

浮かべる人が多いだろう。成分を分析する機械で国内する。この優れた技術は、同じに伝えられている。

環境の保全に貢献できるこの仕事に誇りを感じています。廃車のリサイクルシステムを世界に広めることを目指す同社。JICAと連携して、途上国で調査を実施することは、そうした取り組みを進める上で効果的な手法だという。自らの強みを世界の課題解決に生かすことに加え、近藤さんが強調するのは、地元への還元だ。「この地に生まれたご縁を大切にしたいと思うのです。リサイクルの必要性を楽しく学べる当社主催の『会宝リサイくるまつり』には、例年、3000人を超える地元住民の皆さんが足を運んでくれています」。さらに、同社は地元の耕作放棄地を使って、5年前から本格的に農業にも取り組んでいる。その手法は、廃油ポイラーを活用したハウス栽培という同社ならではのものだ。「高齢者の活躍の場にもなれば」と語る近藤さん。人気商品『しあわせのトマト』のファンも増え続けているという。

